

二〇二五年二月七日

関伽水に浮沈してをる春水
校庭に子らの影なく風花す
肉球の足跡しるき深雪かな
スコップを突き立て深雪測りけり

明日香
せいじ
こすもす
こすもす

二〇二五年二月六日

探梅や豪邸街の塀越しに
赤き実を虜としたる薄氷
バケツからバケツに貫ふ寒しじみ
ふふむ梅雨の雫の珠落とす
拗ねるかに水出ぬ蛇口大寒波
走る子につられて回る吊るし雛

澄子
風民
千鶴
えいじ
よう子
康子

二〇二五年二月五日

里山のもぞもぞとして春兆す
風波の綺羅に紛るるかいつぶり
引き潮に攫はる浜の落椿
盆梅の高さにかがむカメラマン
風花の高舞ふ伏見櫓かな
寒椿結び目固き四つ目垣
雪しまく校庭子らの駆けやまず

明日香
むべ
よし女
なつき
むべ
うつき
やよい

二〇二五年二月四日

往診の医師は白衣に革ジャンパー
嗜好品減らし買ひ足す寒卵
雲を置く主峰に春の立ちにけり
深雪宿頭上注意と軒に札

せいじ
明日香
風民
よし女

二〇二五年二月三日

間詰石より咲きいでし花董
まだかなと日毎存問庭の毎
杜の梅紅白陣を競ふやに
立春のお湿りに土ふつくらと
子供らに頒けむと日がな恵方巻

むべ
明日香
澄子
風民
みきえ

二〇二五年二月二日

紅克ちに源平咲きの椿かな
認知検査百点満点うそ寒し
寒紅の声透き通る琵琶語り
家族皆一病持つ身恵方巻

むべ
よし女
うつき
董雨

二〇二五年二月一日

白梅の殊に著しや蕊の影
大仰に赤鬼ころげ追儼式

むべ
あひる

毎日句会みのる選・二〇二五年二月九日